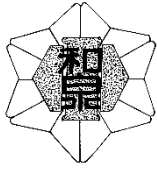


みんな輝け和泉っ子



# 和泉

5月号

## 大山の山頂に立って

校長 平井 克明

芝原のバス停がある4つかどには、道祖神と大山道と書かれた看板があります。この場所には、昔、茶店があつて、大山参りをする人を相手にずいぶん繁盛していたようです。そこから坂道を和泉小前まで下ると、右の畑の中に石碑を見ることができます。その表にはかすかに文字が書かれているのが分かります。調べてみると※「湯殿大権現」と書かれています。雨が降らないと、農民はその場所から遠く大山を眺めながら、雨を降らせてくださいと祈ったそうです。



20丁目富士見台からの富士山

大山には、阿夫利神社という神社があります。阿夫利とは「雨ふり」と同じ意味です。丹沢にかかる雨雲を見て、雨が降ってくれと祈る農民の気持ちは山を神とする気持ちと繋がって、大山を雨ごいの神と考えるようになりました。大山はこうして和泉の農民には神様の山として祭られたそうです。「大山に登らければ一人前の男にはなれない。」と言われた江戸時代には、白い着物を着てお参りしたそうです。戸塚の柏尾町から和泉小学校の前を通って大山に繋がる大山道の周辺は、どこも参拝する人たちが賑わっていたそうです。



さて、この和泉町「大山伝説」を3年前に「創立30年記念資料集」で知り、大山をいつか登ろうと思っていましたが、先週の日曜日にやっと夢が叶いました。日頃は和泉町から富士山と大山を一緒に眺めているばかりでしたので、いざ行くとなると登れるかと少し心配になりました。ハイキング程度と思って、Gパン、スニーカーの軽装で出かけました。阿夫利神社で参拝を済ませ、すぐ神社横から登り始めると、ハイキングではなく完全に登山の準備で来るべきだったと反省しました。大山山頂（28丁目）標高1252mをめざして約90分、途中20丁目の富士見台（右上写真）から見る富士山に感動しながら、やっとの思いで山頂に到着しました。雪の残る山頂付近は多くの登山者で賑わっていました。

帰りに大山豆腐をいただき、週末の健康的な過ごし方としては最高な1日を過ごしました。「大山に登らなければ1人前の男にはなれない」と言われた昔、この辛さを先日体験した私は、当時の人々の気持ちをほんの少しだけ理解できたと思います。

※湯殿大権現・羽黒三山（羽黒山、月山、湯殿山）の大権現（神）として当時は崇拝していた。